

第 45 回日本体外循環技術医学会大会 大会終了のご挨拶

第 45 回日本体外循環技術医学会大会長 開 正宏
(名古屋第一赤十字病院 臨床工学技術課)

第 45 回日本体外循環技術医学会大会を 2019 年 10 月 5 (土) ~ 6 (日) の日程で、名古屋国際会議場において開催させていただきました。会員や非会員等を合わせて 1,045 名、展示企業様用のネームカードを含めると 1,246 名の方にご参加くださり、厚く感謝を申し上げます。一般演題 162 演題と 3 つの講演そしてシンポジウムやパネルディスカッション等で 47 名の演者にお話しいただきプログラムを終えることができました。重ねて御礼を申し上げます。また、学術大会とは機器展示や広告、協賛金等でご協力いただいた企業様によって、ご支援を賜り開催することができております。幾重にも御礼を申し上げます。

近年、各地で自然災害が発生しており、これらにより多くの人命や大切な財産が失われ、人々の生活に多大な被害を与えています。大会のちょうど一週間後に台風 19 号が関東甲信越や東北地方に甚大な被害をもたらしました。台風としては初の特定非常災害が認定され、被害をうけた方々には心よりお見舞い申し上げます。仮に大会日程が一週間ずれていたら？と考えますと、どうなっていたら？と思入ります。参加して下さった皆様や大会をささえて下さった方々のみならず、天にも感謝をしております。

大会のテーマは「体外循環技術のさらなる探求と創意工夫」といたしました。特別講演の先生やシンポジウム、パネルディスカッションの座長や演者さまには、テーマを汲んで下さり”探求”や”創意工夫”を多くの方に取り込んでいただきました。大会を終えた今、学術大会というのは改めて探求や創意工夫を参加者と共に共有するためにあるのだ！と再認識しております。

特別講演では、名古屋市が誇る世界最大級プラネタリウムの名古屋市科学館天文主幹である野田学先生をお招きして「プラネタリウムでの探求と創意工夫」をお話ししていただきました。聴講のみなさまは人体と宇宙という、懸け離れたようで、未だ謎が多い領域に対して共通点を感じたことではないでしょうか。教育講演 1 では名古屋第一赤十字病院心臓血管外科筆頭部長の伊藤敏明先生に「MICS の安全と体外循環」ということで、perfusion に寄ったお話をいただきました。今大会では教育講演 2 において名古屋大学医学部附属病院 麻酔・蘇生医学分野教授の西脇公俊先生に「大量出血など危機的状況に対して如何にチームで取り組むか」をご講演賜り、そのまま同会場にて CV SAP (Cardiovascular surgery & Anesthesia & Perfusion) が「止血戦略 チームとしてどう立ち向かうか」でありましたので、3 時間以上にわたり一貫性のテーマにて行うことができました。通してご聴講していただいた方は、お腹いっぱいになったのでしょうか？西脇先生は初夏に日本麻酔科学会第 66 回学術集会の大会長を務めたばかりの大変お忙しい中で、希望した内容で講演をお引き受け下さり、多大な感謝をしております。

今回、大会長のこだわりとしてパネルディスカッションの多くでは開心術での体外循環技術以外の題材でプログラムを考えさせていただきました。我々臨床工学技士は他職種とのタスクシフティング・タスクシェアリングの時代を迎え、心臓手術周術期にチームの一員として参加できることが肝要であります。そのためには呼吸・循環・代謝を総合的にマネジメントできる臨床工学技士が求められています。この度は体外循環のスペシャリストでありながら、その他のことにおいてもスペシャリストと言える方に座長や演者をお願い致しました。また、本学会理事長の肝いりシンポジウムとして「U-35 企画！Next Generation が想う探求と創意工夫とは？」を行いました。35 歳以下の座長と演者によって口演内容や討論を考えていただき、今後の本学会を担っていく世代の台頭を心から望んでおります。46 回大会でも U-35 企画は予定されておりますので、若い世代の方々には大きく刺激を受けて欲しいです。

懇親会では、約 280 名の多くの方にご参加いただき、ありがとうございました。“名古屋めし”も楽しんでいただけたかと存じます。また余興として「名古屋おもてなし武将隊」による演武と撮影会がありました。名古屋

屋近辺では知らない人はいない人気がある武将隊です。武将揃ってのカメラ撮影はイベントでもほとんど適わないことなので、一緒に写真に収まったかたは貴重な写真です。

大会の開催にあたり、本医学会理事や代議員はじめ多くの会員様にお世話になりました。実行委員や運営委員を務めていただいた東海地方会スタッフ一同のおかげでトラブルもなく大会を遂行することができました。中でも菌田副大会長、後藤実行委員長、笹山査読委員長、黒川広報渉外委員長、大会長経験者であり多大なアドバイスをいただいた林さま、山田さま、そして当院の蜂須賀大会事務局長によって、大会前の立案から長い時間をかけて大会を終えることができ感謝いたします。特に今大会はコンベンション会社に一切運営を委ねずに、ほぼ自己運営で専門業者には直接交渉で開催させていただきましたので、大会事務局長には大きな負担がかかってしまいました。また、今大会から JaSECT の催事（全国学術大会、教育セミナー）には受付システムに携帯端末を利用した QR コードを採用します。QR コード運用に際し、東條理事、興津受付責任者のご両名と受付担当の富田さま、増井さま、栗原さまには大会前より幾度もシミュレーションを重ねていただき感謝しております。少し参加者にはご迷惑や戸惑いも与えてしまいましたが、今後の JaSECT 運営の糧とさせていただきますので、ご容赦の程お願い申し上げます。

会員の皆様には、より一層のご活躍とご健勝を申し上げます。来年の第 46 回学術大会も吉田譲大会長はじめ関東甲信越地方会のスタッフのご活躍により大成功になることを確信しております。大会終了のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。